



## 神様の存在

初等部6年 森田 涼香

「闇の中に輝く光」というテーマに合うなと思った聖句があります。それは「光の子どもらしく歩みなさい」という聖句です。それは闇の中であっても光の子として歩みなさい、と言っているようで、私はこの聖句が一番好きです。

例えば悲しい事があったとしても、光の子らしく歩めばいいとポジティブに思えます。それに今はコロナウイルスがはやっていて、暗闇の中を歩んでいるように感じられます。けれどもこの聖句を読むと、どんな時でも光の子として歩もう、と思えます。この聖句があったから物事を前向きに考えられます。ありがとうという気持ちをもって、今年のイエス様の誕生日をお祝いしようと思います。

イエス様の誕生日を心からお祝いします。それはイエス様が支えて下さらなければ、今、光の子らしく私は歩めていないからです。神様の存在に今年ちゃんと気づくことができました。

## “暗闇”で気付いたこと

初等部教諭 吉野 かわり

爆撃音が響き、窓の外では土煙が上がる。夜はもちろん、日中も家の外に出ることは危険。家の中にも、敵兵に見つれば生活どころか命が危うい——過去のどこか、現在でも地球のどこかでそんな生活を送る人がいる。

4月に始まったオンライン学習は当初、不慣れも手伝って20分の教材作成に十数時間を要した。課題の返信がないと最悪の状況を想像し、平静でいられない一方、質問や相談をしてくる子もいた。非日常の中で教材を配信し続けることが私の役と思い、一日中パソコンの前で過ごした。家の中で息を潜め、焦りと不安に苛まれている時に思い浮かんだのは、アンネ(『アンネの日記』)や聖地訪問中に知り合った難民ニダル、圧政や紛争に苦しむ人々のこと。戦争と感染症は全く違うけれど、奪われた移動の自由、明日が見えない不安・恐怖は重なるのではないか。そんなことを思った。

「暗闇に住む民は大きな光を見、死の陰の地に住む者に光が射し込んだ。」

(マタイ4:16)

今も世界中にいる「アンネ」や紛争下で苦しむ人々を思い、光の源である主の救いを祈り求めたい。

体育発表会

初等部

Elementary  
School

